

週寫眞
報

編輯部報情閣内

ンセ十・號四廿第・日七廿月七

昭和十七年七月廿七日發行 (總編輯 坂本龍一) 第四四號



鍛へよ銃後の夏

附
ラチ才體操圖解





前進黨基

省軍海影攝



補血強壯

ポリタミン

虚弱兒

胃腸に障る強壯劑
は特に禁物です！

ポリタミンは、胃腸の弱い子にもムクのないやうに、牛乳蛋白質を消化したアミノ酸にビタミンBを配した強壯劑です。

このアミノ酸は単にムクなく栄養となるばかりでなく、人體細胞を賦活して全身機能を盛んにしますからポリタミンを常用しますと

食慾がすんで、一度の食事がおいしくなり、そして元氣が付き、疲労せず、血色もよくなり、體重も増し、抵抗力もよくなり、心身ともに健全に發育いたします。

子たちの喜ぶ、
甘味の液劑

小瓶(一歳五五銭)
中瓶(二歳五〇銭)
大瓶(四歳五〇銭)
全国藥局にあり

發賣元 大野市通商町 昭興(武田製兵衛商店)
關東代店 東京 錦糸小西製兵衛商店
製造元 大阪 大五製藥株式会社



雨雲低くたれとめる日、敵機の来るおそれのない時勇士ははじめて休養に恵まれる。

七月四日、〇〇基地の勇士らは大軍南島空軍に出発した。この日は敵機五十一機を撃破した。

(上)司令から出發命令をうける當日の荒鷲たち、指揮官〇〇少佐。

(下)離陸直前エンジンの調子にじつと耳を傾ける。

中支戦線〇〇飛行基地
七月〇〇日

司令の命に幾百人の荒鷲が整列した。今日は南島空襲だ。司令が攻撃命令を下すと、この部隊の指揮官〇〇少佐が一同の前に出て地圖によつて攻撃の實施要領を詳細に説明し始めた。敵の飛行機が地上に居る場合はどう、敵機が空中に上つて来た場合はどうするか、又敵が全然居なかつたらどうするか、雷撃の時はどう言つた風に一々詳しく教へる。翼が幼い一人は出陣の場合といへどもこれ程親切に注意を興へることはない。だからと思はれるほどである。

そして、意と出發！一同司令に敬請して機上の人となる。多くの人がたかが竹日本刀を懐へてゐるのか見受けられる。引揚つた空襲だ。

やがて出發の隊が指揮所のマストに集つた。ものすごい爆音で、低空を非常に早い速力で大きな攻撃機が次々と怒り上空に舞ひ上り、全機見ごとく雷撃で飛行場内を二層、そして雷雲の空に羽ばたき音は遠くくく消えて行つた。

これを見送る整備員の眼はいつも燃返へされるこの一瞬までの勇姿に充血してゐる。これらの人々の腹れた胸を凝視しては昨夜みた。雷火管制の階層の中で各所に煙音が聞える。格納庫の中には整備員の観望した小さな豆電燈が、壁の火のやうに淡い光を機庫の重要部に投げかける。こんな暗いところで地上整備員は一つの間違ひもなく發動機部の分解手入をするのだ。

事象がまつて以来、わか航空部隊は敵機を撃破すること既に一千機を突破した。この戦史に誇るべき成果の半は、この隠れた整備員の超人的努力に負ふこと極めて大きい。ことを特に此の際強調したい。

海軍省海軍軍務部
海軍少佐 山口 肇



大黃河を決壊して幾十萬の無辜の民を水にうづめた支那軍は更に長江の堤防をきるの暴虐を敢てした。漢水に浸されつつある安慶附近。

草いきれと害虫の外には飲む水さへない。大陸の太陽に翼は灼けプロペラは熱風を切る前進基地の勞苦は筆舌に絶する。

〇〇から基地へ連絡機が来た。長江の濁水を漕ぎ寄せる水兵さんの胸には何が揺かかっているだらうか。故郷の便りか、慰問袋か。

撮影 海軍省





⇒ 猫二匹のほかは何にもない。生活に
疲れ切った支那農民の顔が水鏡に寫る
何の抗日ぞ！



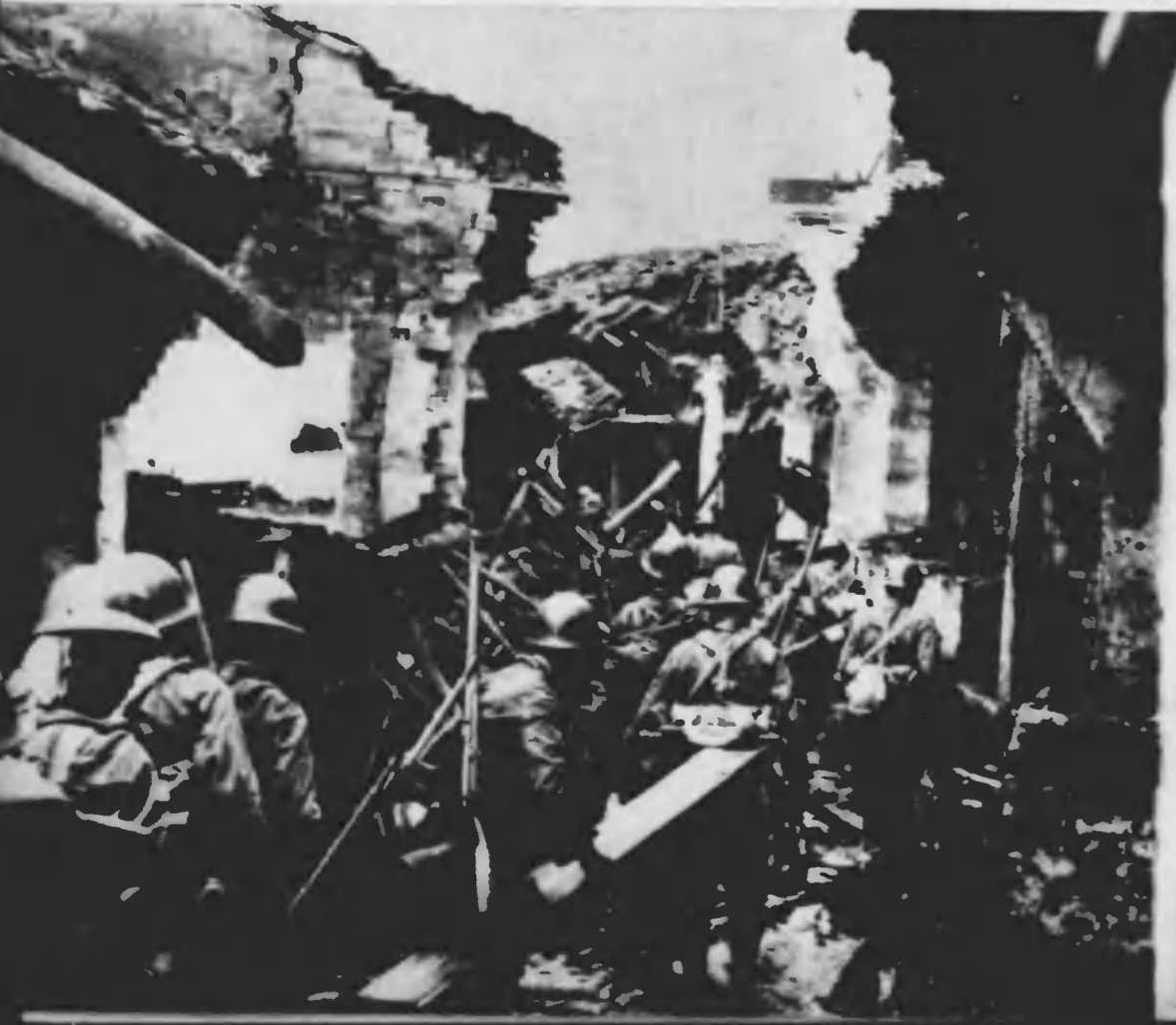
⇐ 故けた大和魂も、助け
られた波法子も、鐵道の土
埃でホット一息



**流濁を感恩
てし寫に**
區地岸北江長

支那軍の侵入... 長江の決壊により無算にも住み慣れた土地を一時にして水濁に奪われた安東省大平野の支那軍十萬の無算の民衆は、無算の功をなすものともせず、心からの苦悶と悲憤を吐き出している。

果て知れずひろがり氾
濫した黄河の水はこんな
ところまで浸してしまつた。
難行する早車の後を
やがて宜撫班や治安隊
持参の人々も追つてゆく



⇐ 煤撃のあと偏ましいい街に今度は泥水が押し寄せた。橋に使ふ板キレまで持つてゆく連軍は並大抵の苦心ではない。



⇐ 見渡すかぎり、
唯泥の水、水、
無算の支那民衆
をこんな奇邊な
い困難に陥れる
蔣政権。

鍛へよ銃後の夏

國民身心運動

八月一日—二十日

撮影 菊地豊三郎

1 お店は今日はおひるから暇になつた。御主人から、「非常時だ、活動なんか見るより水泳にでもいつて来い。」とお小遣ひを渡された小僧さん。

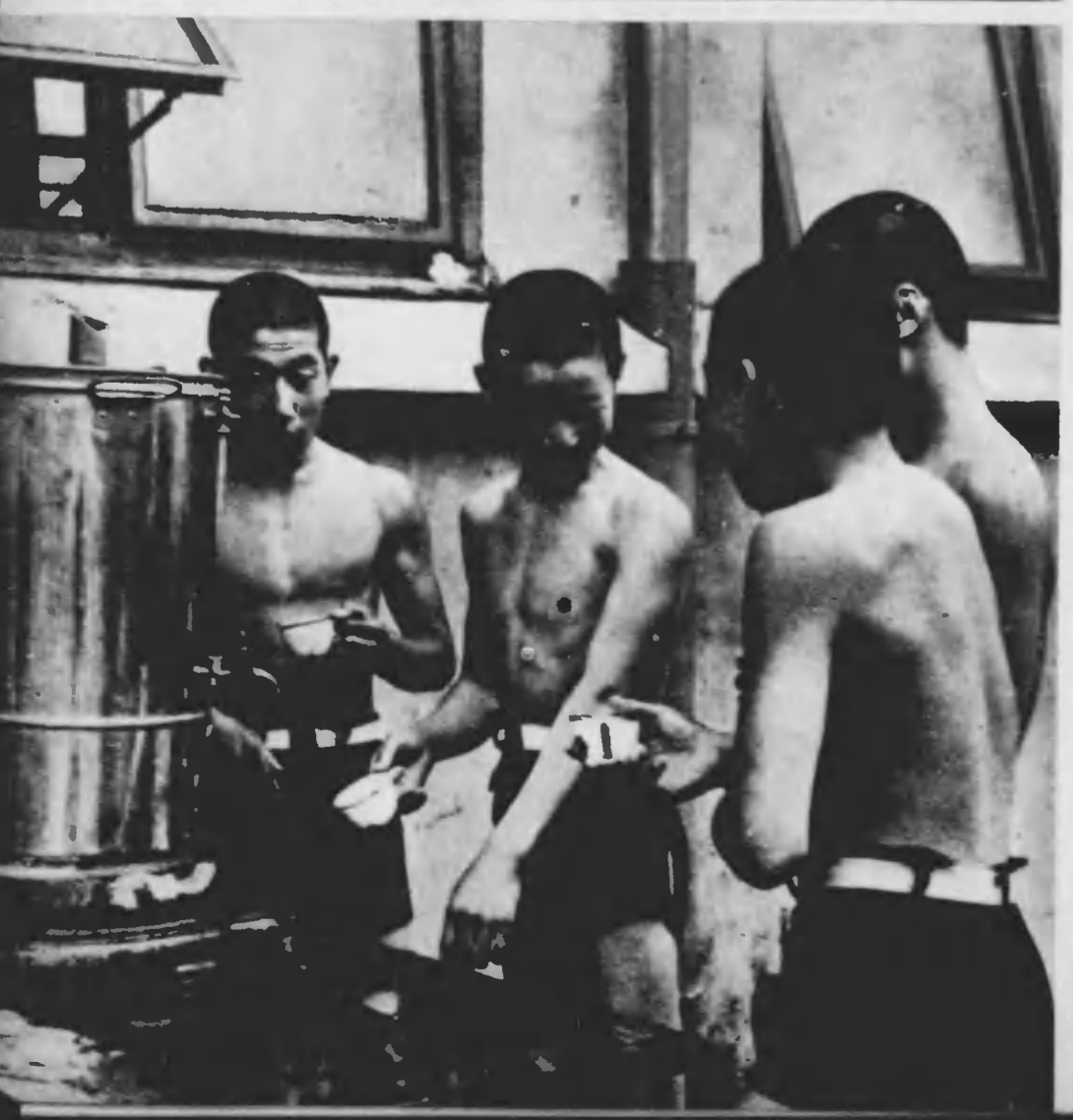
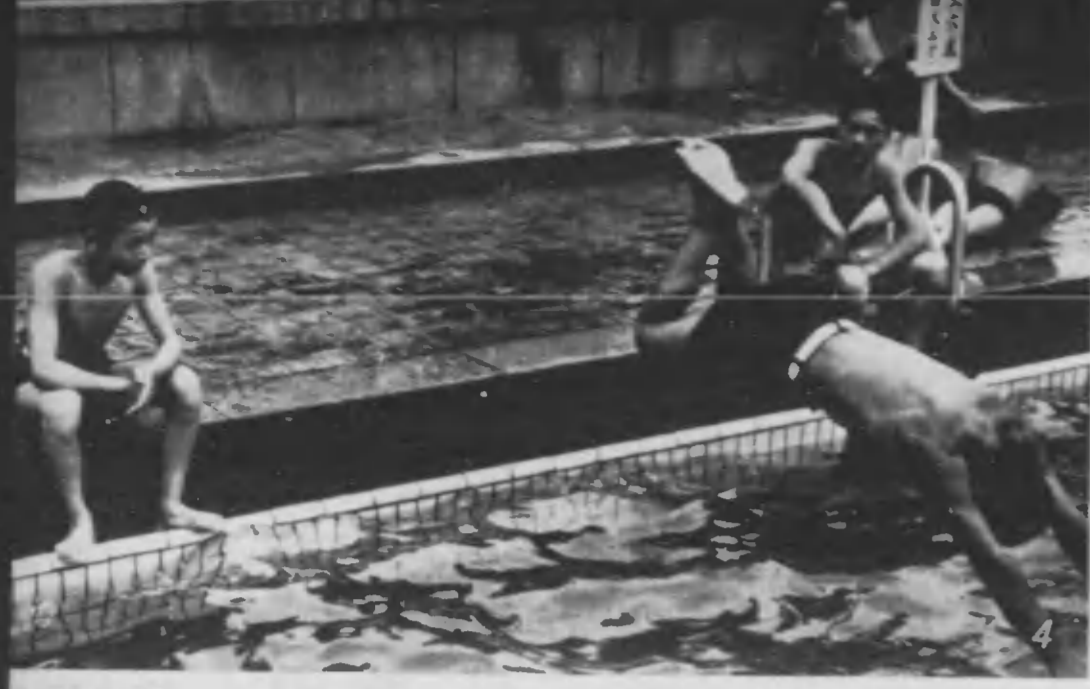
2 近くの公園にあるプールに出かけて、先づシャワーを浴びる。「ウフ、チキソオ！ 今日少しづつてえぞオ。」

3 空はちよつと曇つてゐるが、それでもやっぱり水泳日本だ。ハシリの河原がわが世の春と水音をたてゐる。

4 子、運動もすんだ、水もキレイだ。「オ、見てくれ、飛び込むぞ。」一生懸命なクロールにタイルの白さがはね返る。

5 トラホームになんかならないやうに泳ぎつかれてかすかにしびれるやうな身体には洗眼器の清水が快い。

6 ぬるまつい湯が、オ、食道を通つて胃に洗れてくのがわかるぞ。「チエツ、あんまりやけなかつたな。」へ、僕の方が二へん分うんとやけてるよ、ホラ。



國家が榮えるか榮えぬかといふことは、國民がその底に旺盛な活動力を保持してゐるからなる。よる。——あらゆるものを創り出し動かすものは人の力であり、産業、國防、文化の各部門から見ても人の活動が如何に大切であるかは、いくら言つても言ひ過ぎることはないであらう。

古來、民族は繁榮か滅亡かのいづれかの道を進んで來て、そのいづれにも向はないといふことはあり得ない話である。——體の強い、精神力の旺盛な、智的に優秀な民族——は必ずさかえてゆくのである。

厚生省が一省となつて獨立した所以もこゝにあるのであつて、われわれは一體、心身鍛錬に向はねばならぬ秋である。殊に日本の現状を考へる時、次代を背負ふ若少年は困苦缺乏に堪え、ぐんぐんと難局を乗り切つてゆくだけの強い精神力を是非とも培はねばならない。そして同時にこれは、これからの大政政策とも密接な關係を有することになる。

夏は往々にして緊張してゐた気分がゆるむものであるが、今こそ東亞の繁榮、日本の繁榮のため、の礎をかためよう！——體操がある、徒歩がある、水泳がある。

國家、民族の立場から考へる時、スポーツはどうしても必要不可欠の出来ぬものである。八月一日から二十日間、政府は國民精神總動員・體位向上の心身鍛錬運動を提唱する。——だれでもすぐ出来る四つの運動種目（ラヂオ體操、武道・水泳、徒歩、樂隊的動作）だ、特別の經費も用具もいらぬ。現時局にはふさはしい。國民よ、この運動にこそつて参加しよう、すべては明るい健康からだ。

厚生省

操體オチラての舉民國



昇る朝日の
光を浴びて
屈けよ伸せよ
われらが腕



労働者も
(助川海岸で日立鋼
山鋼鐵保衛組合員
のラヂオ体操)
街の人々も
(ラヂオ体操の
時間ばかりは並
路しさいで全
町通りの大阪
市東區平野町一
二町合)
家庭でも
みんな一齊脚
く健康日本を
めざしてラ
ヂオ体操を
行ひませう



腹地でも兵隊さんが
七なびかせて元氣よ
イサハ

に地聖の國建 鉄の仕奉ふ振



起工祭は五月八日午前十時半から、敬務公園の祭場で、明野の名士を始め一般名士の下に、厳肅に挙行された。

起工祭は午前八時半、敬務公園運動場に集合、奉仕隊の授與をうけ、宮城並びに神宮を遙拜、大詔を奉讀、榎原神宮に参拜後、隊長の訓話、副長の作業指示をうけて、いよいよ作業に取りかかる。

光緒ある紀元二千六百年を誇るべき種々の奉祀記念事業の中、榎原神宮並びに敬務山東北陵参道築造工事は、既約四百萬圓を要する大工事であつて、現在、神宮と御陵とに接近して走る大阪電氣軌道を約三百メートル東方に移し、約三十一萬平方メートルの土地を買収して神宮御陵並に御陵参道を構築し、また省線御陵駅と新設の大阪電氣軌道及び大阪電氣鐵道の綜合駅とを結ぶ延長約二千六百メートルの参拜道路を建設して、神宮参道並に御陵参道をこれに連絡させて交通施設の改善を圖ると共に、神宮の動使館、寶篋藏所、その他附屬建物を新築、又は改築

し、又新たに掘削された神宮御陵、御陵参道に、高き石地を造り、大小種々の石燈籠、廣鐘を配して聖域の森嚴を保たうとするのである。

工事は五月八日の起工祭とともに二年後の夏あけを期して、いよいよ開始されたが、御陵の聖地をもつ奈良縣はもとより、各府縣でも、國民的奉祀事業はわれらの手でと起ち上り、男女中等學校、高等小學校、青年學校、青年會、市町村、銀行會社、工場等で各別に奉仕隊を組織、長年の間に隊を擴げて、奉仕と勤勞奉仕をつげける。

大阪府建國奉仕隊もこのほど池田知事以下職員代表約三百名が日の丸旗を腰に、地下足袋、巻脚絆の男らしいいでたちで勤勞に參加、炎天下に奉仕の熱を振り、汗を流した。

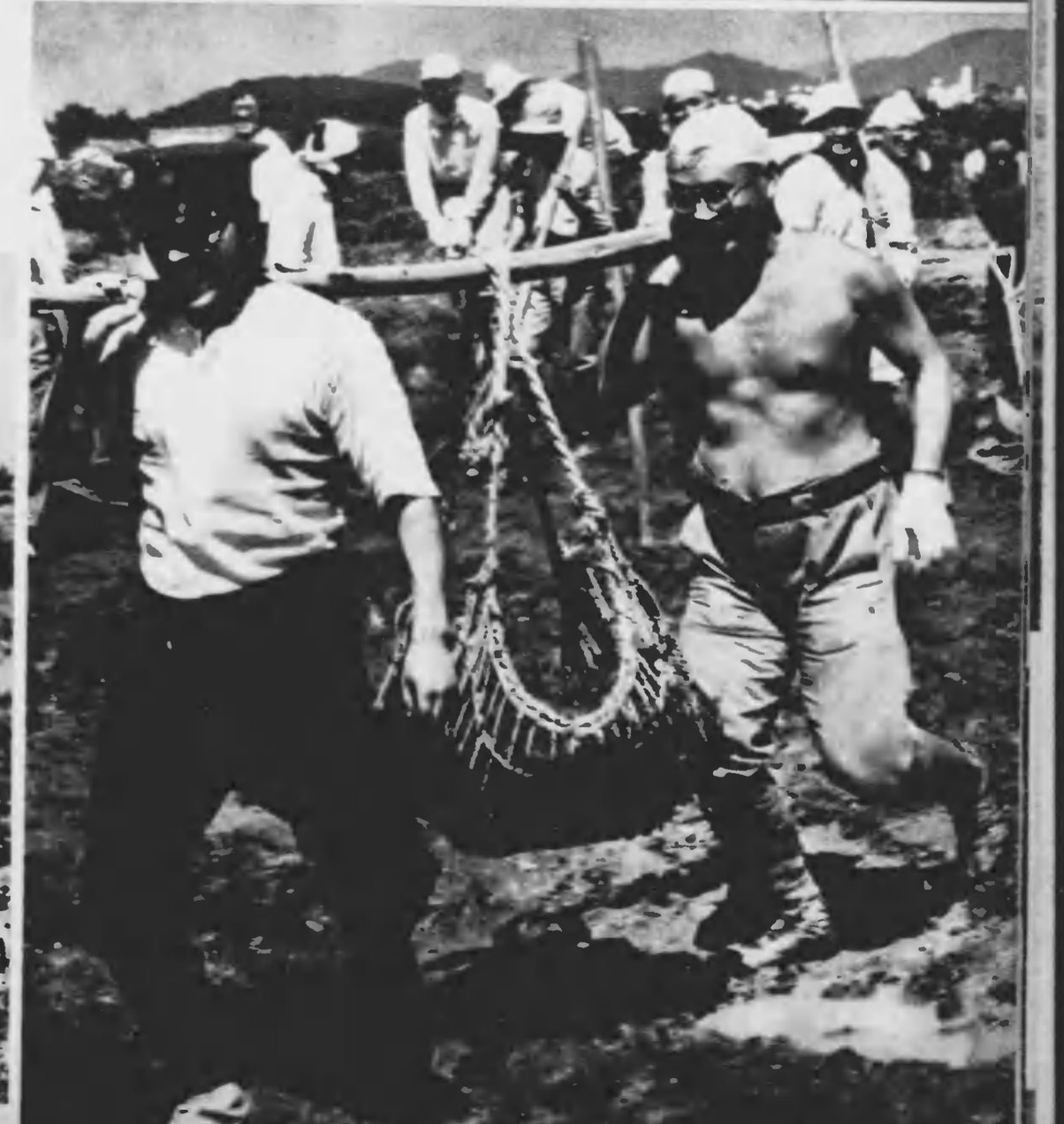
職員の前頭立つて働く池田知事(左)と長谷川總務部長

はためく隊旗を押し立て、奉仕の一念に土を踏み返せば、遠い建國の音が偲ばれる。

わたしたちの微力も奉祀事業にと馳せ参じた女學生の奉仕隊、聖地にひるがへる八咫鳥隊旗を仰いで懸命の勤勞作業をつげける。二年後に迫る榮ある年と思へば、懐い腕にも感涙の血潮が漲打つ。

撮影 延永 實

地元の婦人團體も、連日入り替り立ち替り工事に參加する建國奉仕隊の接待に大奮、聖地の真近く住むものに工事の日一日と進歩して行くのを見る喜びは特さも忘れ、疲勞も覚えぬ奉仕をつげさせる。





撮影 吉田 榮

普通醤油を最大限まで濃縮すれば、かなりしたどろりとしたエキスとなる。これが戦地で約三倍の水にうすめられれば、美しい調味料となつて、勇士に舌を打たせる。

日本の将兵にはいつ如何なるときにも純日本食をモットーに研究製造されたのが、この携帯口糧である。一包の重さ、わずか二三百グラム、これ一個でベテランの勇兵の胃袋を十分に満足させることが出来る。幾日の貯蔵にも堪える。

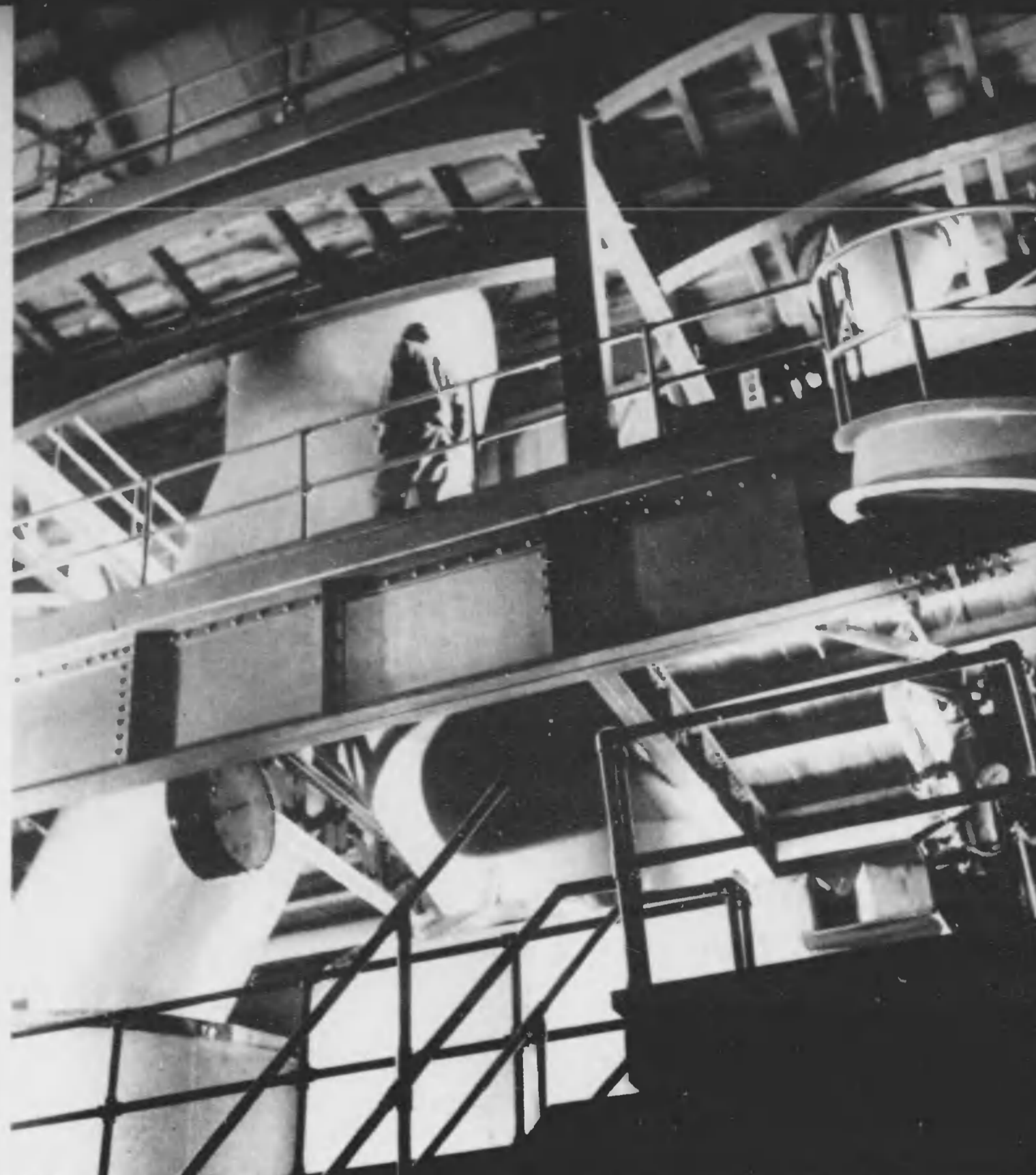
小さな小判型の主食七個をまとめたものと、副食の小包み三つ、合せて六包みを大包みとして包装される。包装の一つ一つにも乙女のまごころは大いに込められ、どんなにか勇氣と活力を與へることだらう。

本廠を東京に、支廠を大阪、宇治に置く。調味料は、支那大陸に産する武蔵を立てゝる。塩は、まづ何よりも精製の不自由なものをとらねない。各工場、電力一致、日夜働きの作業をつづけてゐる。

軍需工場見學

★陸軍糧秣本廠★

携帯口糧主食膨脹装置
敵を急追し強行軍を敢行する兵士がその背廣の底に收めて空腹を満たす携帯口糧の主食は、まづ玄米と大麦をこの膨脹機にかけて、膨脹米とし、これに少量の食鹽を加へて乾燥、粉碎し、膨脹機にかけて小判形につくる。



りのも一つでよく、兵士四分の食糧となる。膨脹口糧や、非常の場合の主食となる乾パン、或は水を加へればそのまま普通の醤油となる。醤油エキス、粉醤油等、或はわが軍需が社製な爆撃機に携へるべき航空糧食も、また勇敢なわが軍需のための膨脹機等、科學の奇想をあつめて研究製造し、一方民間から肉類、蔬菜、醬油等の買上げを行つて、皇軍の原動力たる糧秣供給に遺憾のないやう、懸命の努力を拂つてゐる。



副食膨脹機
副食は、梅干、削製餅、砂糖の三種に分れる。梅干は蒸氣を加へ、削製餅は味をつけて、砂糖は味をつけて、砂糖も同様乾燥粉砕して型に入れる。

托兒所
糧秣本廠でも、夜に妻に厭身的作業をつづける工員のために、種々な福利施設が講じられてゐる。お母さんは工場へ行つてくるから、保護を困らせなさいとおとなしくして、ハイチャ、ハイチャ、托兒所は女工員を母に持つ、小さい子供たちの天國だ。





方彼の海

社信通夏開



**伊王アフリカ領
民地に海軍遊**
伊太利王・エチオピア皇
帝ヴィクトル・エマヌエ
一世は六月初旬、夏の地中
海を渡つて白蘭地地帯の
露の途につかざられた。露
眞はリビヤ總督イタロ・バ
ルボ將軍と御同乗、リビヤ
首都トリポリ沿道の軍艦及
び市民の歓迎を受けさせら
れるエマヌエール一世。



**世界早廻りのロツ
クヒード一四型**
アメリカの金持飛行家ハ
ワード・ヒューズ氏はロツ
クヒードの一四三九号機
で地球一周九十
十時間といふ前人未到の記
録をつくつて、五年前ホス
ト氏が打ち樹てた世界早廻
り飛行記録を半分短縮し
た。眞はカリフォルニア
で壯健直前試験中のヒュー
ズ機。双発千五百馬力、高
空飛翔のため酸素吸入設備
を用意してゐる。

**訪日使節ムツソリーニ
首相に復命**
過剰歸國したパウルク
侯以下のイタリイ訪日親善
使節一行は六月廿三日ロ
ーマ、ヴェネチア宮にムツ
ソリーニ首相を訪問、訪日
の使命を完了した旨復命す
ると共に、近衛首相並に滿
洲國國務總理張景惠氏のメ
ツソリーニを傳達した。ム
首相は一行の成功を祝賀、直
ちに日滿兩國首相にあつて謝
電を送した。

**第八回バルチック
協商國會議**
ラトヴィア、エストニア、
リトアニアの三國より成る
バルチック協商國外相會議
は六月十日から三日間ラト
ヴィア首府リガに於てラト
ヴィア外相ムンテリス氏司
會の下に開催された。同會
議はポーランドの辭族によ
るもので、ドイツ及びソ聯
の進出に備へバルチックの
中立を宣言した。

**コペンハーゲン
カムフラージュ
テント村**
農業國デンマークの首都
コペンハーゲン近郊ペラホ
ーで農業の大博覧會が開か
れた。この集團テントはそ
の時たくさん放牧された家
畜を遊んだり逃げ出した
させないため、こゝに見張
りがあるんだぞ、と騙す名
案新案山手。ほんとの
見張り人はペラホー附近の
宿屋に泊つてゐた。





定制部報情閣内
一新型の綴込バカ
 が出来るまで!!

幅装な活版の装布・るめ込綴にすけ明を穴
 の在自由自し外取、得し容敷を分年々半で
 紙表案新



定價
 一部 六十銭
 送料
 市内 六銭
 地方 十二銭
 外地 廿七銭

販賣元
 東京市芝区新富町一丁目二五番
 電話東京一四二七五番
 支店
 寫眞週報配送部
 全国各地官報販賣所
 東京都書籍株式會社
 最寄書店・販賣店
 各地新聞販賣所
 寫眞材料店

編輯部報情閣内

週報

トッレフンパの策圖

毎水曜日發行

見本御希望の方は内閣印刷局宛御申出下さい

内閣印刷局發行
 東京市芝区新富町一丁目二五番
 電話東京一四二七五番
 支店
 寫眞週報配送部
 全国各地官報販賣所
 東京都書籍株式會社
 最寄書店・販賣店
 各地新聞販賣所
 寫眞材料店



讀者のカメラ



「軍人稚兒隊」
 千葉縣松戸町 誠
 千葉縣流山町に「軍人稚兒隊」が誕生しました。六、七才の少年男子十一名から成る部隊で、支那事變一周年には、松戸神社に参拜、戦死者英霊追悼並に出征將兵の武運長久を祈願しました。

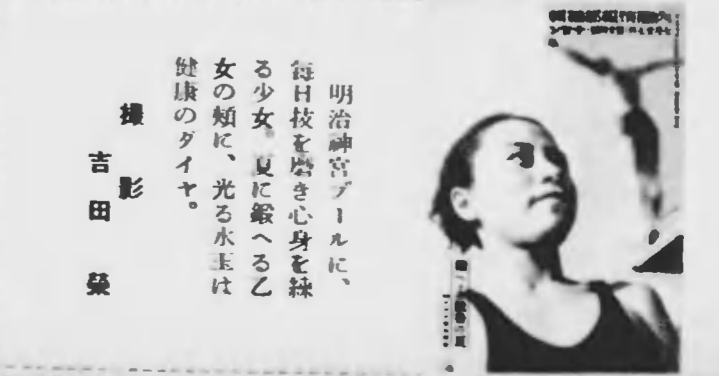


下駄で揃へる銃後の足並
 京都市今出川 大嶋 正三
 七月七日、京都の戦物商組合員約三百名は、八坂神社に参拜、皇軍の武運長久を祈つてから、下駄で銃後の足並をそろへ、非常時の皮革対策を、戦物日本主義で強化させよう、と節約示威行進をしました。

寫眞集規定
 本誌は「寫眞集」の一助にもと考へ、出来る限り紙面を開放し、寫者のカメラを動員、優秀な技術を持つてゐる。題材は内外、戦況、戦後の復興に關するものなら何でもよい。例へば戦時にも、或は工場、家庭、學校など、所々に攝る戦後の様子、國民精神、或は季節と趣向の面白い組合せなどどうでもよい。一枚の寫眞でも、或は一枚の組合せでもよく、切取りは決定せず、サイズはヤレキ以上、掲載の分には寫眞又は安全品を贈呈し、原稿は當部に送るものとす。他作品は一切返却せず。
 内閣情報部

- 「週報」寫眞週報
 合同ボスタ
 懸賞入選者發表
- 一等(一名) 賞金三百圓
 名古屋市中川區西古渡町 宇柳田五八 山口 勝一
 - 二等(一名) 賞金百圓
 東京市日黒區上目黒七ノ一 一八 大 智 浩
 - 三等(一名) 賞金五十圓
 東京市京橋區寶町一ノ三 平田千代吉
- 佳作(十名) 賞金各二十圓
- 横濱市中區日野町二〇三〇 竹内 徳治
 - 東京市神田區宮本町一〇 五島 治 雄
 - 東京市赤坂區盛町三二 鈴木 道 明
 - 岐阜市木造町七 加藤 孝 司
 - 東京市日本橋區兜町二ノ五六 島屋商店内 西 澤 大 六
 - 兵庫縣川邊郡寶塚小濱村 下川面宮ノ西二七 清水 芳 郎
 - 兵庫縣武庫郡住吉村宇瀬 新田九三ノ一 安 保 俱 一
 - 大阪市東區大今里町九 岡 井 清 誠
 - 福岡市今無町一 日高方 世 良 達 雄
 - 兵庫縣御影町柳 九〇〇 佐藤 英 一 郎

所 込 申	價 定	寫眞週報(發行部)
一部	六十銭	昭和十三年七月二十日印刷發行 發行部 内閣情報部 印刷部 大日本印刷株式會社 支店 東京市日黒區日野町一ノ二
十部	四圓八十銭	一ヶ年(前金) 四圓八十銭 一ヶ年分未済送付希望の方は一部十銭の割合を以て前金を添へ御申込み下さい
寫眞週報配送部	東京市芝区新富町一丁目二五番 電話東京一四二七五番 支店 全国各地官報販賣所 東京都書籍株式會社 最寄書店・販賣店 各地新聞販賣所 寫眞材料店	



明治神宮プールに、毎日技を磨き心身を練る少女。夏に撮へる乙女の頬に、光る水玉は健康のダイヤ。
 撮影 吉田 榮

高麗酒報 昭和十三年七月十二日 第三三三號 東京府 昭和十三年七月廿七日發行 (毎週一四水曜日出紙) 第廿四號



國民のつてらオチ體操

健康報國

(本書の大きさは国定規格A4・「選集」参照)